

活動基本方針:

- (1) 機能的表示・規制等への「提言」
- (2) 食品の3機能の科学的評価、合理的な安全性証明等を目指すプロジェクトの「立案」
- (3) 機能的食品関連産業の興隆と海外展開に向け、企業・アカデミア・地域クラスター等の「連携」を柱とした活動推進

2018年度(H30年度)活動:

国民の健康寿命の延伸と産業振興への貢献を目指し、勉強会の実施や会員相互の意見交換を通じて、「食品」に関わる法律・制度の見直しに向けた提言やパブコメへの意見を纏め、JABEX等と連携して関係機関へ提出。JSPS「未病マーカー」委員会との連携を行い、食品産業のイノベーションと新ビジネスの創造に繋げる。

連携:

- (1) JSPS「食による生体恒常性維持の指標となる未病マーカー探索戦略」委員会との協力連携
- (2) アカデミアと産業界のマッチング(連携/融合)

提言:

- (1) 提言①: 各国の「食」「医薬品」の公的な定義・分類から、各国の食品の機能的表示の位置づけを考察し、日本から機能的食品をグローバルに展開していくための必要事項を纏めた要望書の関係省庁への提出に向け、研究会で論議。
- (2) 提言②: H30年度内閣府規制改革ホットラインを活用し、食薬区分に関わる機能的表示の運用の見直しに関わる要望書を申請、厚生労働省・消費者庁のHPに研究会の意見が反映された形で掲載。
- (3) 提言③: 機能的表示制度がより国民に役立つものとなるよう、研究会で議論を重ね、動物実験の必要性に関する要望書を消費者庁長官宛に提出。
- (4) 提言④: 「食」が体に良いと素直に言える環境構築に向け、官公庁への要望書提出を視野に、研究会で議論。

講演会(JBA会員公開):

研究会の議論を深める講演会を年4回実施

第1回 2018年6月14日(木) テーマ:「食の研究開発の目指すところ」 参加者48名

「東北大学(東北地方)を拠点とした「食」の研究開発の動き」

宮澤 陽夫 氏 東北大学未来科学技術共同研究センター 教授

東北大学未来科学技術共同研究センターでの「食」の研究開発を題材に、
社会の要請に応える新技術と新産業分野の創出のご紹介があった。

「機能性食品に関する日本と海外の法的位置づけの違い」

岩元 睦夫 氏 鹿児島県大隅加工技術研究センター 所長

「食」が出発点である欧米と「医薬」が出発点となっている日本との違いから
日本における「食」の研究の在り方についてのご提案があった。



第2回 2018年9月19日(水) テーマ:「メタボローム」 参加者53名

「食品の質的評価に有用なフードメタボロミクス」

飯島 陽子 氏 神奈川工科大学 応用バイオ科学部 教授

食品の質的評価に有用なフードメタボロミクス研究について、
LC-MSの活用など具体的な応用事例についてのご紹介があった。

「マルチオミクス解析による食品の機能性研究」

加藤 久典 氏 東京大学大学院 農学生命科学研究科 特任教授

マルチオミクス解析、ゲノムワイド相関解析、エピゲノム解析などの
新切り口の網羅的解析を食の研究に有効活用するお話があった。



第3回 2018年12月10日(月) テーマ: 「miRNA と mRNA」 参加者42名**「食品成分によるアルツハイマー病 (AD) 予防効果と予防反応性マーカーの探索」****小林 彰子 氏 東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授**

ポリフェノールの抗AD効果に着目。有力な抗AD素材候補として見出した
ロスマリン酸(RA)をADモデルマウスを用いて解析するお話があった。

「桑葉の機能性評価研究におけるマーカーとしてのトランスクリプトーム解析」**亀井 飛鳥 氏 神奈川県立産業技術総合研究所 主任研究員**

桑の葉を食べたラット血液のトランスクリプトーム解析から興味深い知見を得、
未病マーカーへの活用展開の可能性に関するお話があった。

**第4回 2019年2月25日(月) テーマ: 「海外戦略」 参加者43名****「EUにおける研究動向からの考察する機能性食品の潮流」****戸田 雅子 氏 東北大学大学院 農学研究科 食品化学分野 教授**

健康な社会の実現に向け、食品中の様々な生理活性を持つ機能性成分の
同定や、機能発現の機序に関する研究の重要性をご紹介いただいた。

「CPTPP時代における機能性食品事業の海外展開」**武田 猛 氏 株式会社グローバルニュートリショングループ 代表取締役**

EUやASEAN諸国での機能性食品市場に係る現状と規制に関するお話があり、
各国特有のルールに基づく対応の必要性について解説があった。

